

# 別府原鐘踊り



鐘踊りの起源は明らかでないが、慶長年間朝鮮へ出兵の武士の士気を鼓舞し、また凱旋した武士を慰労するために踊られたという言い伝えがある。その後は豊作祈願のための踊りとなった。

構成は小太鼓2人、鐘8人、大太鼓16人の計26人が最もよいとされているが、最近では人員確保が困難なため、20人以下で踊らざるを得ない状況である。

服装は小太鼓は着物に角帯じめに白足袋、空色のタスキ、腰（角帯の上）に黄色の帯をして、頭に笠をかぶり、花で飾っている。鐘は白の上下下着に鐘踊り用に特注した着物を着て角帯をしめ、その上を黄色の帯でしめる。ひざから下は脚絆をして、白足袋、草履ばき、頭は笠をかぶっている。大太鼓は白の上下下着に太鼓用の襟、袖を黒く縁取りしたもの。膝から下は脚絆に白足袋、草履履きで頭は笠をかぶり、白のナイロン（戦前は馬の毛）をつけている。

（画像は令和5年8月、楽のみ奉納した際のもの）

## 【奉納・披露】

日程：未定

場所：諏訪神社